

笛吹市地域おこし協力隊平成 29 年度活動報告

農業振興担当 八木優彰

【活動期間】平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

【配属先】農事組合法人アグリ ONE

【活動目標】年間を通しての果樹栽培技術研修、地域の農産物を活用した 6 次産業化、協力隊によるマスタード事業の推進、笛吹市の農業の魅力発信。

【活動形態】基本の活動は農事組合法人アグリ ONE での研修に置きつつ、市内の直売所加工組合での農産物加工研修、協力隊マスタード事業に必要な活動に取り組む。

【活動概要】

① 農事組合法人アグリ ONE での果樹、野菜の栽培技術研修

昨年度から継続して農事組合法人アグリ ONE で、ぶどう、桃、を中心とした果樹の栽培研修を受けた。



昨年度の 12 月に着任したこともあり、生育の過程を見るのは初めてだった。

作業をしていく中で、基本的な農業用機械の扱いや、植物に関する知識、就農するにあたっての考え方を指導していただくとともに、地域の人たちや先輩就農者との繋がりも紹介してもらった。また、個々の家で大きく経営スタイルが違うことがあり、自営農家になるということはそれぞれの家族構成やものの見方で経営の方針を判断するという、当たり前のように持っていなかった自立した考え方に気づかされた。

② グリーンファーム加工組合での農産物加工研修

29年の夏にグリーンファーム直売所の加工組合による桃の加工を手伝ったことが縁で、11月より正式に加工組合の研修組合員として参加。

29年の3月より、同じく笛吹市地域おこし協力隊の木村隊員と共同で地域の農産物を活用した加工品開発をスタートさせていたが、加工に関する基本的な知識や衛生管理が不足していたため、長く農産物の加工に携わっているメンバーの中に加わることで勉強をさせてもらっている。

また、直売所の理事長である森さんの要望で、新たな加工品開発、販路開拓と一緒に取り組んでいきたいと考えている。



③ 協力隊によるマスタード事業

同僚の木村隊員との共同事業として平成29年の夏よりスタート。笛吹市産の素材を使用したマスタードを開発中。平成29年度の総務省地域おこし協力隊ビジネスアワードに採択された。

平成29年の3月よりスタートした協力隊の農産物加工品の開発プロジェクト。その中の一つとして夏より笛吹市産のマスタード開発事業を始めた。8月下旬に実験圃場として市の管理する市民農園1反からスタート。峡東農務事務所や6次産業化サポートセンター、その他多くの団体や個人、総務省、笛吹市の協力を得て推進中。

【現況】

原料生産に関しては、笛吹市内において、約8反の事業用農地を借りて原料となるからし菜、他を栽培中。現在からし菜の採種は国内では大々的に行われておらず、栽培、採種方法のデータが少ないため、薬物野菜として栽培している産地や、菜種の産地のように類似した事例を持つ地域に問い合わせるなどして取り組んでいる。また、マスタードのフレーバー

に使う原料も栽培する予定である。



整備前と整備後の畑



実験圃場で収穫されたマスタードシード

製品製造に関しては、昨年の12月より山梨県中小企業団体中央会より派遣された6次化プランナーの専門家の指導のもと、マスタードの試作、ブランディングなど総合的な支援を受けている。マスタードの原料が揃う7月までに設備の導入を完了させる予定である。



試作中のマスタード

④ 今後の活動目標について

- ・平成 30 年度は活動の重点をマスタード事業におき、原料生産、製品製造、販売を推進する。
- ・市の農業の魅力を伝えられるよう SNS を活用した情報発信をこれまで以上に行う。
- ・マスタード以外にも、市の魅力的な農産物をアピールするツールとしての加工品の開発を継続して行う
- ・市内外でのイベントへの出展を増やす。